第 20 期京都教師塾　塾生通信

学びの広場

京都市教育委員会
教員養成支援室
令和７年11月22日　No.4

第３回京都市教育学講座
若手教員パネルディスカッション　『教師の喜びと厳しさ』

第３回の教育学講座では、『教師の喜びと厳しさ』をテーマに、小学校・中学校・高等学校・総合支援学校・養護教諭・栄養教諭の６名の若手教員によるパネルディスカッションを行いました。

子どもとの信頼関係を築くという点に関しては、「子どものちょっとした表情や言動の背景にある思いを丁寧に捉えて関わること」、「ただ叱るのではなく、子どものこれからの姿を想像し、どのような言葉をかけたらいいか考えること」「毎日のわかりやすく楽しい授業こそが、信頼関係につながること」など、様々な視点から子どもと関係を築く上で大切なことをお話しいただきました。

また、「子どもを褒めることの大切さ」も共通の話題となりました。褒められることは、子どもにとって安心感や意欲につながります。先生が率先して褒めることで、子ども同士が互いのよさを認め合える、横のつながりがある集団づくりを目指したいという先生の熱い思いにも触れることができました。

さらに、「積極的にコミュニケーションを図ること」も重要なキーワードとしてあげられました。一人で抱え込まず、自分から教職員と関わり、対話を重ねることで、同僚の先生方から学び、協力しながら取り組むことが、よりよい授業や子どもとの関わりにつながると感じられました。

若手の先生方が教育に対する確かな考えをもち、向上心にあふれていること、そして子どもとの具体的なエピソードを生き生きと語る姿は、教職をめざす塾生にとって大きな学びや刺激となりました。

分散会の様子

パネリストの先生方には分散会にもご参加いただき、塾生と直接交流しながら、さらに深めたい内容についての質問に丁寧に答えてくださいました。分散会は終始、活発で前向きな雰囲気に包まれ、塾生は今日の学びを踏まえ、今後取り組みたいことや、子どもと関わる上で大切にしていきたいことを明確にすることができました。

仲間のレポートに学ぶ

このコーナーでは、「レポート集」に綴られた
素晴らしい学びの１ページを紹介します。
ぜひ、仲間の学びにふれてみてください。

私は今回の講座を通して、教職の素晴らしさに改めて気づかされた。学びを進める中で本当に自分に教師が務まるのかと不安を感じるようになっていた。しかし、現場の先生も不安を持ちつつ、それを原動力に日々行動されていることを知り、少しでも自信をもって子ども達に向き合えるように学び、行動し続けることの重要性を実感した。また、子ども達のことで悩みながらも、時にその子ども達に救われ成長させられるということが、他の職では経験できない教員の強みであり、子ども達とともに成長していきたいという思いがより強くなった。

全体会では、一人一人の子どもを深く理解し、寄り添うための様々な具体的手法について多くの学びを得た。子どもとの一対一の直接的な関わりだけでなく、子ども同士のやりとりや遊びの観察を通してみえるものがあることや、多職種がチームとなって協働することで、子どもを様々な角度から理解できることを知った。また、子どもの言葉や行動をただ受けるというような受動的な理解だけではなく、自ら子どものよさや頑張りを見つけにいき、それを言葉にして伝えること、子どもが今何を思っているのかと想像を膨らませること、多職種で情報共有する場の設置を提案すること、教師自身が様々な分野に興味をもつことで子どもとの距離を縮めるきっかけを探すこと、など様々な方法で能動的に子どもを理解する必要性を学んだ。

分散会では、指導を通じて子ども達にどんな力をつけてほしいのかという軸となる考えをもつことの重要性について考えた。子ども達が決して良い気分にはならないような指導が必要となる場面もある。そのようなときに自分の中で判断基準を明確にもち、長期的な視点で子どもにどう育ってほしいのかという考えをもつことで、本当に必要な指導を冷静に考えることができる。子どもへの寄り添いを前提にしながらも、一本芯の通った教師であることが、信頼される教師になるために必要な一つの要素ではないかと考えた。

養護教諭として、まずは保健室での子どもの様子や保健室だからこそみえる子どものよさを積極的に情報共有することから始めたい。また、様々な先生の教育観を学びながら、子ども達との関わりを通して自分なりの教育の軸について考えていきたいと思う。

子どもたちとともに成長していきたいという思いをもつことで、また一歩前へ踏み出すことができたようですね。養護教諭の方は「ミニケース会」を自ら提案され実践されていました。その提案に至るまでには、職場での人間関係や信頼関係の構築のためにきっと努力されてきたのだろうということも想像できたのではないでしょうか。子どもにとって本当に必要な指導のために「一本芯の通った教師」でありたいという思いは、その養護教諭の先生の姿とも重ねられてのことなのでしょうね。「自分なりの教育の軸」を、子どもたちとの関わりを通して考えようとする姿勢に期待しています。

～クラス担当スタッフからのコメント～

次回の講座

京都市教育学講座⑤
中学校専門講座：中学校における教科学習　～特別の教科　道徳『道徳的価値に触れるための授業の工夫～
小学校専門講座：小学校における教科学習　<めあて・中心発問づくり> ～特別の教科　道徳　を通して～

総合教育センター指導主事(道徳)による模擬授業を伴った講座です。分散会では、講義で学んだことを生かし、「めあて」や「ねらい」を考えたり、児童・生徒の反応を踏まえて、どのような問い返しや揺さぶりの発問が効果的かを話し合ったりします。特別の教科 道徳 を通して学ぶ授業づくりの視点は、他の教科にも広く波及するものです。事前課題も十分に準備し、当日を迎えられるようにしましょう。